5．税効果会計関係

繰延税金資産の主な原因別内訳

（単位：円）

項　　目	平成29年３月31日現在
繰延税金資産	
税務上繰越欠損金	1,623,851,620
繰延税金資産	486,261,111
控除：評価性引当額	486,261,111
繰延税金資産　　合計	0

6．重要な後発事象

該当事項はありません。

7．減損に関する事項

当期に減損を認識した固定資産は以下のとおりであります。

桟橋（晴海）

⑴　固定資産の概要

資産名	種　　類	用　　途	減損前の帳簿価額（平成28年度末）	場　　所
桟橋(晴海)	構築物	船舶の係留	18,874,200円	東京都中央区晴海五丁目７及び８番地

⑵　減損の認識に至った経緯

上記資産については、当法人が所有する船舶の係留に使用してきましたが、平成28年度末において、老朽化に伴う著しい機能的減価が判明し、当該資産全部の使用が想定されないため、減損を認識しております。

⑶　算定方法等の概要

減損額は、使用価値相当額により算定しており、減損を認識した固定資産の帳簿価額に、当該資産につき使用が想定されていない部分以外の部分の割合を乗じて算定しております。当期減損計上額は次のとおりです。

資産名	種　類	減損前の帳簿価額（平成28年度末）	減損計上額	損益計算書計上区分
桟橋(晴海)	構築物	18,874,200円	18,874,199円	損益計算書に計上していない額

8．資産除去債務に関する事項

石綿障害予防規則に基づき、当該法令に定める範囲の撤去に要する費用を合理的に見積もり、資産除去債務を計上しております。

フロン回収破壊法に基づき、当該法令に定める範囲の除去に要する費用を合理的に見積もり、資産除去債務を計上しております。

放射性同位元素等による放射線障害の防止に関する法律に基づき、当該法令に定める範囲の除去に要する費用を合理的に見積もり、資産除去債務を計上しております。

事務所の用に供している不動産の賃借契約に伴う原状回復義務に基づき、賃貸不動産の原状回復に要する費用を合理的に見積もり、資産除去債務を計上しております。

資産除去債務の見積もりにあたり、支出までの見込期間は取得時からの耐用年数（４年から50年）によっており、割引率は0.0000％から1.5050％を採用しております。

当事業年度における資産除去債務の残高の推移は次のとおりです。

期首残高	64,302,779円
有形固定資産の取得に伴う増加額	15,443,395円
時の経過による調整額	567,584円
資産除去債務の履行による減少額	184,985円
期末残高	80,128,773円

9．不要財産に係る国庫納付等

不要財産に係る国庫納付等については以下のとおりです。

①	資産名称		「なつしま」及び搭載機器		「かいよう」及び搭載機器	
②	資産種類		船舶	工具器具備品	船舶	工具器具備品
③	帳簿価額	⑴取得価額	334,860,000円	130,428,547円	787,576,300円	48,370,661円
		⑵減価償却累計額	320,895,074円	117,642,181円	747,007,630円	46,358,848円
		⑶帳簿価額	13,964,926円	12,786,366円	40,568,670円	2,011,813円
④	不要財産となった理由		今後、業務を確実に実施する上で必要がないため			
⑤	国庫納付等の方法		譲渡収入による国庫納付			
⑥	譲渡収入の額		216,108,000円		648,000円	
⑦	控除費用		16,201,630円		22,575,232円	
⑧	国庫納付額		177,979,138円			
⑨	納付年月日		平成28年５月31日及び平成28年６月10日			
⑩	減資額		383,331,532円		730,636,218円	
⑪	備考					

10．その他独立行政法人の状況を適切に開示するために必要な会計情報

地震・津波観測監視システムの移管について

「独立行政法人改革等に関する基本的な方針」（平成25年12月24日閣議決定）により、南海トラフ海域において整備を進めてきました地震・津波観測監視システム（ＤＯＮＥＴ）について、その整備が終了した際には、本システムを独立行政法人防災科学技術研究所（現国立研究開発法人防災科学技術研究所）に移管することとなっておりました。

本システムの整備が平成27年度中に終了したため、平成28年４月１日に本システムを国立研究開発法人防災科学技術研究所に移管をしています。移管時の固定資産帳簿価額は9,503,590,139円であり、その全額を固定資産譲渡損として損益計算書の臨時損失に計上し、さらに同額を資産見返補助金等戻入として損益計算書の臨時利益に計上しております。